

令和7年度博物館事業評価（内容、目標値の確認）

資料3-3

戦略指標1 資料収集と保管・活用

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

定量的評価

No.	評価項目	単位	R4実績	R5実績	R6実績	R7目標	考え方・基準	変更点・備考
1	収蔵資料台帳のデジタル化件数(累計)	件	88,916	81,410	82,680	84,000	年度末時点のデジタル台帳登録件数	令和4～5年度資料点検の結果、データ重複が存在していることが判明。データ修正を行うとともに目標値を見直した。
2	新規受入資料の公開率	%	26	18	47	40	当該年度とその前年度の受入資料件数のうち、公開(展示、刊行物、インターネット等)した件数の比率	
3	収蔵品オンライン検索システム「ある蔵」における公開件数(累計)	件	12,004	11,996	-	12,150	年度末時点の「ある蔵」公開件数(中期目標:R7年度12,500件、※デジタル台帳登録目標100,000件の12.5%)	3月協議会時点での目標設定値12,375で1年当たり125件の追加をしていく計画だったが、誤記や重複等による件数の減があったため、R5実績からおおよそ125件の増に修正。
4	館内収蔵庫の点検・清掃回数	件	12	12	12	12	温湿度等環境点検及び庫内清掃回数(月1回見当)	
5	資料事故発生件数	件	0	1	0	0	紛失、破損、汚損等の件数	

定性的評価（A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない）

No.	評価項目	見直	R4	R5	R6	R7	判断基準	備考
1	計画的な資料収集が行われている。		A	A	A		資料収集方針・資料購入基準に基づいて資料を収集している。	
			A	A	A		現状の収蔵環境を踏まえて、収集検討会議により受入を決定し、会議記録を残している。	
			A	-	-		資料購入評価会の構成員をあらかじめ想定し、すぐに対応できるようにしている。	
2	資料の保管が確実になされ、良好な状態に保たれている。		B	B	B		資料管理のフローチャートが運用されている。	
			A	A	A		収蔵庫の鍵の管理や機械警備の運用が厳格に行われている。	
			C	C	C		資料の収蔵場所を明確にするとともに、その場所への収蔵が確実に行われている。	
			D	D	C		全ての収蔵施設におけるデジタル台帳作成が計画的に行われている。	
			B	B	B		収蔵庫の温湿度を常に計測し、庫内の環境に注意している。	協議会意見を踏まえ、文言変更。 ※収蔵庫に温湿度調整設備が備わっており、現状で可能な対応策をとるため。
3	全ての収蔵施設が計画的に運用されている。		C	B	B		全ての収蔵施設について毎年現地点検を行い、必要な措置を講じている。	
			D	C	C		収蔵施設の資料点検を実施している。	協議会意見を踏まえ、文言変更。 ※施設が遠方にあること、台帳未整備の施設があることを踏まえると、単年度に全ての施設の資料を把握することは困難であるため、文言を修正した。以下R5年度までの実績 ▽分館全5件 実施0件 点検2件、未着手3件 ▽収蔵施設全11件 完了3件、点検1件、未着手7件
4	収蔵資料の活用と見直しが図られている。		B	B	C		デジタルデータの公開活用が推進されている。	
			C	C	C		未整理資料や再整理を要する資料の活用に向けた確認・整理作業が推進されている。	
			A	A	A		他館への資料貸出、画像提供、資料熟覧への対応が内規に基づいて適切に行われている。	
			-	A	A		廃棄・移管・返却等に係る除籍手続きが基準に基づいて適切に行われている。	

戦略指標2 調査研究

・学芸員の質の向上 ・地域の研究機関との共同研究 ・地域資料の掘り起こし

定量的評価

No.	評価項目	単位	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	考え方・基準	変更点・備考
1	学芸員が講演・講座等の講師を務めた件数	件	19	11	30	15	外部での研究発表や出前講座も含む。連続講座は1回。ギャラリートーク、展示解説は非該当。	館内講座11 館外からの依頼19
2	学芸員の学術的著述本数(外部での掲載を含む)	本	6	5	2	3	館報・図録・報告書や、外部研究誌等へ記名の著述掲載本数。連載は1本。2年目以降の学芸員1人1本目標。	学芸員が1人減のため、3月時目標値から1本減。
3	学芸員が調査に出向いた件数	件	27	35	41	20	外部での資料調査、熟覧、視察など。同一調査に複数回でも1件。	
4	他機関と連携した調査研究の件数	件	5	4	4	6	大学、機関、研究者等との調査研究連携件数。イベント等のみは含まない。	

定性的評価 （A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない）

No.	評価項目	見直し	R4	R5	R6	R7	判断基準	変更点・備考
1	調査研究が学芸員の重要な業務の一つとして位置づけられている。		C	C	B		調査研究とその他業務における適切な業務量の配分と分担がされている。	
2	調査研究の環境が保たれている。		C	C	C		調査研究に必要なスペースが確保され、機材が適切に配備されている。	
			C	C	C		調査研究スペースにおいて整理・整頓が日常的に行われている。	
			B	B	B		調査、視察、研修、有識者指導など学芸員の資質向上に必要な予算が確保され、積極的に活用されている。	
3	調査研究が適切な内容・方法で行われている。		B	B	B		設定されたテーマに基づいて質の保たれた調査研究が計画的に行われ、講座等で市民に還元している。	
			B	B	B		学芸員が外部機関との共同研究に参画している。	

戦略指標3 展示・教育普及活動

・浜松市と関連のある展示の企画 ・学校や地域と連携した講座やイベントの開催

定量的評価

No.	評価項目	単位	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	考え方・基準	変更点・備考
1	観覧者数(本館)	人	31,547	26,239	25,413	33,000	本館合計(アウトリーチを除く)	
2	観覧者数(分館)	人	22,859	17,599	9,129	22,000	5館合計	
3	企画展開催件数	件	8	6	8	7	特別展、テーマ展、小展示(スポット展示や外部での展示は含めず)	
4	企画展の満足度	点	7.7	7.4	8.1	7.7	アンケート(0～10点)の平均値。展示毎に算出し、その平均とする。	
5	分館における企画展開催件数	件	23	7	11	10	巡回展や企画展のほか、各所管部署や指定管理者主体の展示も含む。	市民ミュージアム浜北の臨時休館のため、前年度より下方修正。
6	講座開催件数	件	14	4	9	10	館主催の講演会・講座の回数。先方依頼講座は含まず。連続講座は1回。	
7	体験事業満足度	点	9.3	8.8	9.2	8.7	アンケート(0～10点)の平均値。事業毎に算出し、その平均とする。 ※は4段階評価時の数値	
8	学校移動博物館開催件数	件	9	10	10	6	学校へ博物館職員が出向く形での展示・体験学習の実施件数。	
9	教材貸出件数	件	94	92	86	100	学校等への教材用資料や体験学習用具の貸出件数。	
10	常設展内の資料更新回数	件	5	4	6	3	常設展の部分的な展示更新の回数(期間限定の展示を含む)。	近世・近現代・民具コーナーの大幅な展示替を予定。
11	レファレンス対応件数	件	80	69	61	70	来館、メール、電話等による件数合計。	

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R4	R5	R6	R7	判断基準	変更点・備考
1	本館は、市内の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われている。		D	C	C		常設展の魅力向上に取り組むとともに、多様性への対応(多言語・音声・ハンズオン・配置・文字サイズ・難易度等)を進めている。	
			B	A	A		計画的な企画展の開催により、収蔵資料を効果的に公開している。	
			B	B	B		展示や教育普及事業において、デジタル技術を活かした効果的な事業展開を行っている。	
			B	B	A		速報展など時節や市民ニーズに即応した柔軟な事業展開を行っている。	
2	分館は、各地域の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われている。		B	B	B		各地域の特色を生かした常設展示が行われている。	
			B	B	A		各分館の地域の人々や担当者の意見や要望が、企画展示等の事業に反映されている。	
3	学校の学習内容に即した見学・体験のプログラムを行うとともに、授業を支援する教材を提供している。		A	A	A		主に小学校3年生と6年生の学習内容に合わせた見学・体験プログラムが構成されている。	
			A	A	A		学校のニーズ等を把握し、見学・体験プログラムの改善に努めている。	
			C	C	C		デジタル技術を用いたオンライン上での学習支援を進めている。	
4	市民に学びの場を提供している。		C	B	B		来館者が理解を深められるオンラインの活用を含めた効果的な講座や展示解説等を開催している。	
			B	A	A		博物館実習をはじめ、多様な研修を受け入れている。	
5	浜松の歴史や文化を題材とした体験学習事業を行っている。		A	A	A		展示や講座等と関連付けた体験学習事業の開催により学習の相乗効果が高められている。	
			B	B	A		幅広い層が学びながら楽しめる体験学習プログラムを開発している。	

戦略指標4 市民協働

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

定量的評価

No.	評価項目	単位	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 目標	考え方・基準	変更点・備考
1	地域団体等と連携した事業の実施件数	件	3	3	4	3	自治会や市民団体等との連携による館内・蛭塚公園・伊場公園を利用したイベントなど。(連続するものは1件)	
2	市民参加型事業の開催件数	件	2	0	0	2	共同調査、意見聴取型WS、協業などの件数。	
3	出張展示開催件数	件	1	1	2	3	外部の店舗や施設から依頼を受けて出張展示を行った件数。	
4	出前講座等開催件数	件	11	7	31	10	依頼を受けて講座に出向いた件数。	
5	他団体共催事業件数	件	3	1	4	5	展示、講座、イベント等で調査研究は含まない。	
6	ボランティア参加延べ人数	人	356	357	348	380	ボランティアの延べ活動人数。(研修除く)	
7	ボランティア養成事業開催回数	回	10	5	4	6	講座、報告会、実習等の資質向上に関する事業の開催回数。	

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R4	R5	R6	R7	判断基準	変更点・備考
1	博物館の事業運営をボランティアなど市民協働で推進している。		B	B	B		ボランティアの募集・育成・活動の拡充を進めている。	
			B	B	B		ボランティアにインセンティブ(講座等事業の優先参加や個別サービス等)や企画提案の場を用意するなど意欲向上の取り組みを進めている。	
			B	B	B		シティプロモーションを意識した事業展開を官民連携も含めて進めている。	
2	博物館の事業が、新たな文化創造や社会の課題解決に寄与している。		B	B	B		市民団体等に博物館や蛭塚公園でのユニークベニューを促進している。	
			C	C	C		社会の課題解決に向けた事業展開を図っている。	
3	地域との連携が良好な関係性のもとで行われている。		B	B	B		地域住民の活動の場として博物館や蛭塚公園が有効活用されている。	
			B	B	B		地域との連絡・調整体制が築かれている。	
4	各分館が地域の特色を示すとともに課題解決の場となっている。		B	B	B		分館事業に対する感想や各地域の要望を把握し、課題の改善に努めている。	
			B	B	A		分館担当者や指定管理者との定期的な連絡・調整の場を設定している。	

戦略指標5 情報の発信と公開

・SNSによる情報発信 ・多言語対応ガイドシステム導入 ・観光訪問者への情報提供

定量的評価

No.	評価項目	単位	R4実績	R5実績	R6実績	R7目標	考え方・基準	変更点・備考
1	SNSフォロワー数	人	1,936	2,142	3,269	3,800	ツイッター、Instagramの年度末時点のフォロワー数。	3月末の実績値を踏まえて上方修正。
2	HPアクセス数	件	85,522	68,719	175,124	86,000	博物館HPのトップページアクセス数。広聴広報課で把握。	今後、トップページ以外の計測も可能になれば、評価項目の見直しを検討。
3	アップした動画の平均再生回数	回	391	635	712	650	年度内にアップした動画の年度末時点の再生回数の平均値。	
4	報道取り上げ回数	回	52	32	71	50	新聞・ラジオ・TV・雑誌等の取り上げ回数。	TV8、ラジオ1、雑誌14、新聞26、インターネット22

定性的評価 （A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない）

No.	評価項目	見直し	R4	R5	R6	R7	判断基準	変更点・備考
1	効果的な情報発信の手段や方法が選択されている。		A	A	A		・過去の実績やアンケート等に基づき、事業の規模や対象に合った情報発信手段(広報誌、ポスター・チラシ、広告、HP、SNS等)を適切に選択している。	
			C	C	D		・HPや収蔵品検索システム「ある蔵」の、内容の充実と見やすさの改善に努めている。	
			B	B	A		・積極的な報道発表を行い、報道機関を通じた情報発信に努めている。	
2	市内外の幅広い層に向けて博物館の周知を行っている。		C	C	C		・展示解説やパンフレットなど多言語化への対応を進めている。	
			B	B	B		・観光施設や宿泊施設等との連携を深め、博物館の広域的な周知に努めている。	
			B	B	B		・地域の魅力を紹介することで、地域に対する関心の向上に努めている。	
3	博物館の多様な所蔵資料や活動内容についての情報を発信している。		A	A	A		・刊行物(博物館報、博物館だより、博物館情報等)が計画通り発行されている。	
			B	B	B		・HP等における事業の動画や資料、収蔵品の情報など、オンラインを活用した来館できない人向けの情報提供に努めている。	
			B	B	A		・SNSでは事業の開催周知だけではなく、日々の活動状況も公開することで、博物館事業への理解が深められるように努めている。	